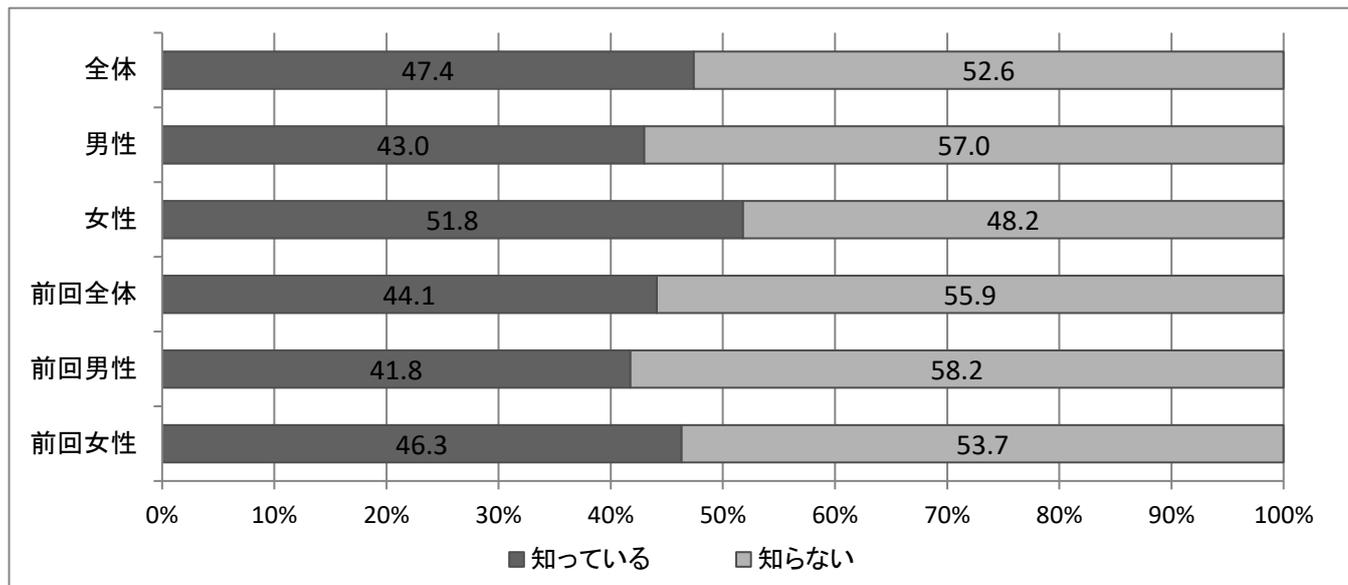


IV DVの子どもへの影響

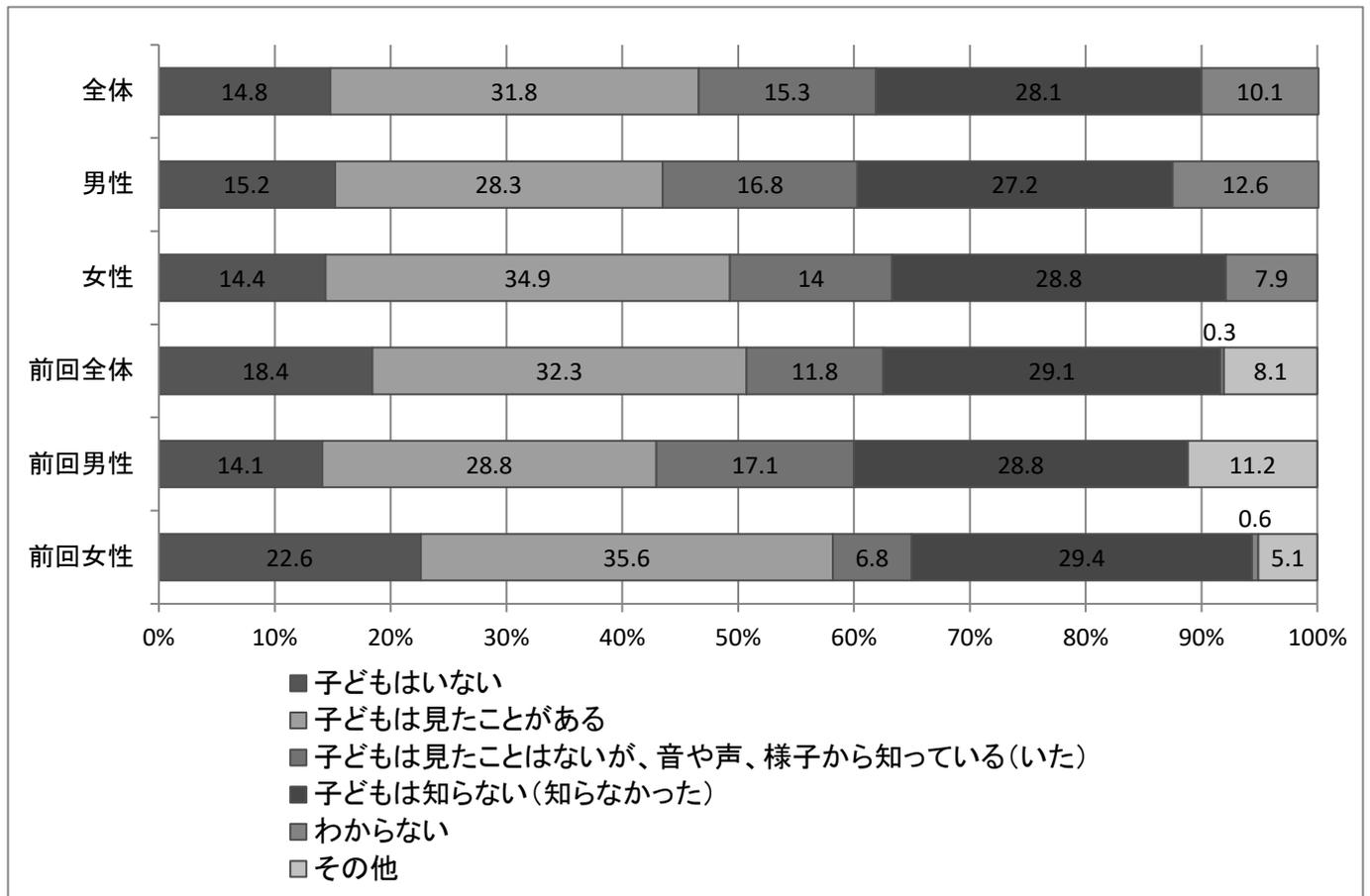
【子どもがDVを見聞きしたことがあるか】

子どもの前での暴力等（夫婦げんか等）が児童虐待に当たることを知っている認識は前回調査よりも増えているものの半分以下であった。また、DVが発生しており、子どもがいる場合に、子どもの認知度については、「子どもは見たことがある」が37.3%で最も高く、子どもがDVを認知している（「見たことがある」と「見たことはないが、音や声、様子から知っていた（知っている）」の合計）は55.2%となっている。前回調査で子どもがDVを認知しているのは54.1%で、今回は1.1ポイント高くなっている。

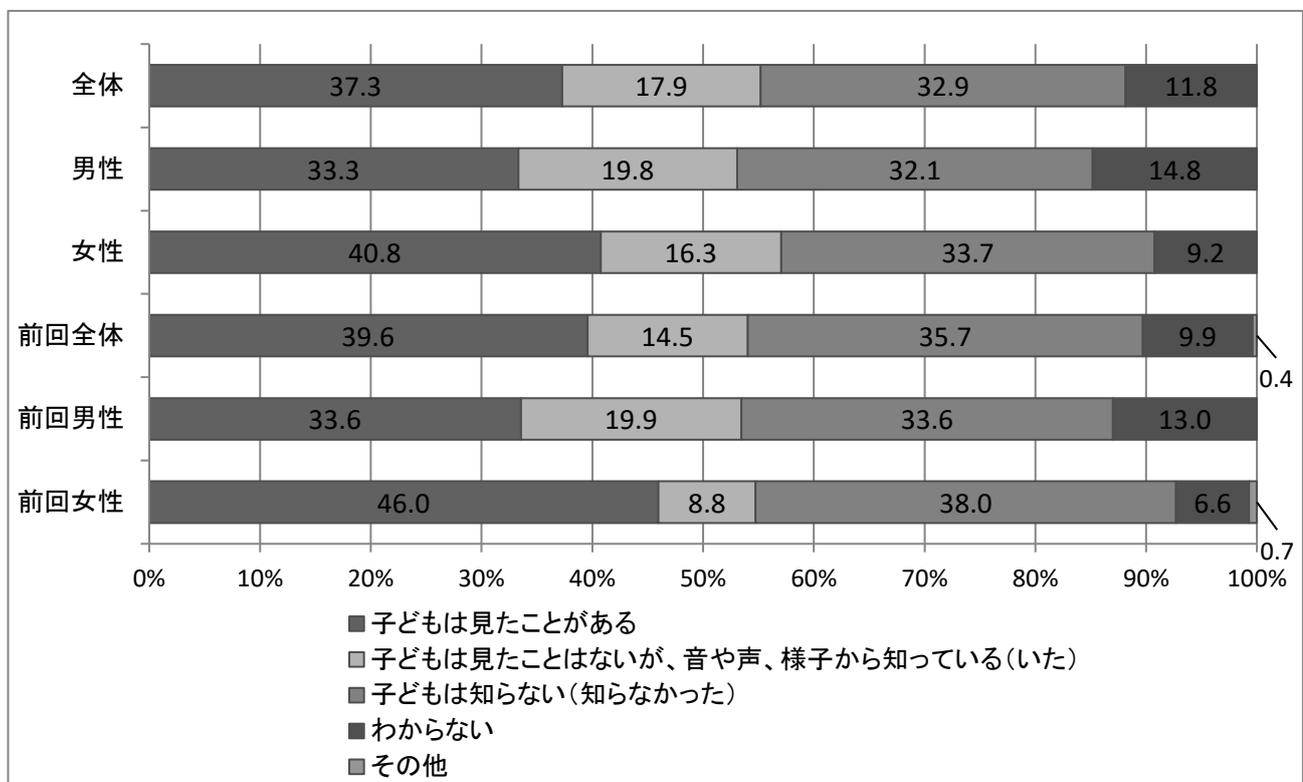
（問）子どもの前での暴力等（夫婦げんか等）が児童虐待に当たることを知っていますか。



(問) あなたのお子さんは、そのような行為を受けたのを見たことがありますか。または、知っていますか。



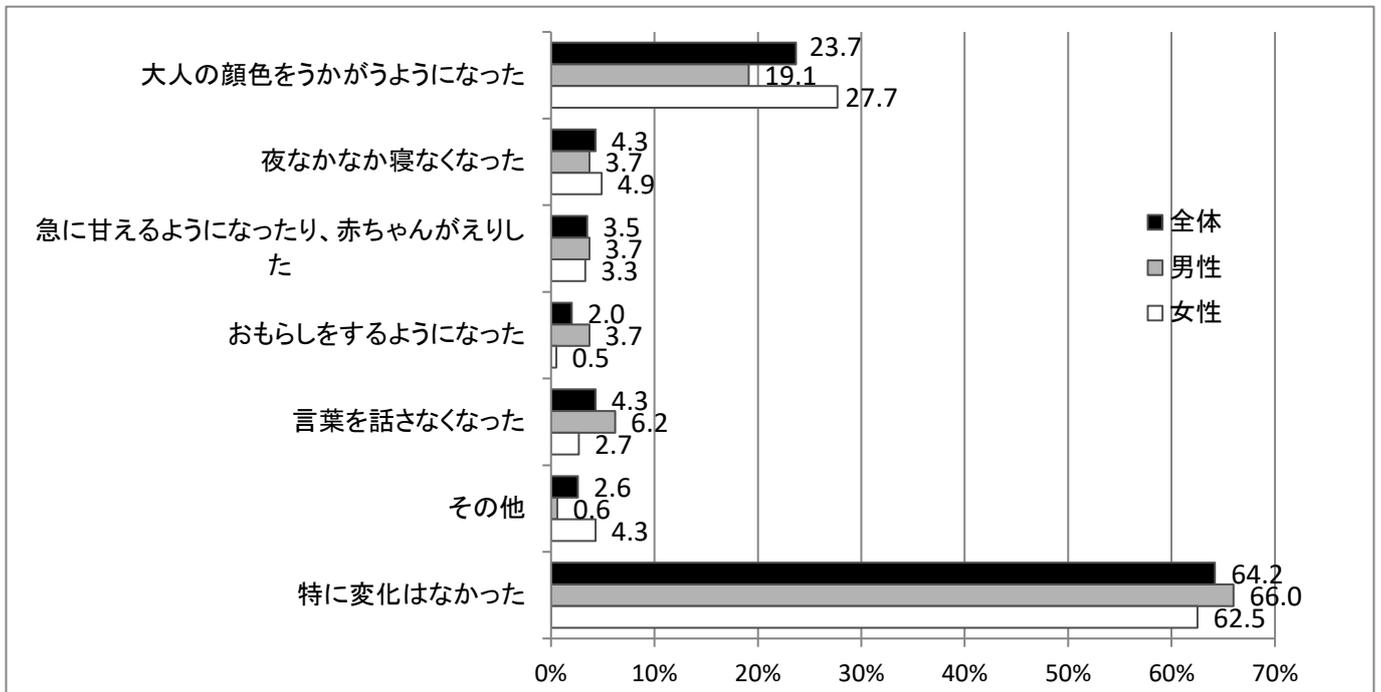
(「子どもはいない」を除外した場合)



【DV後の子どもの変化】

DVを見聞きした後の子どもの変化については、「特に変化はなかった」が64.2%（前回66.1%）と高く、次に高いのが「親の顔をうかがうようになった」が23.7%（前回25.1%）となっており、前回同様の順である。

（問）あなたがそのような行為を受けたあと、お子さんに何か変化はありましたか。（いくつでも）



【暴力が子どもに及んだか】

DVが発生したとき、子どもに対する暴力や虐待が「あった」は12.7%となっている。男女別では、女性が5.3ポイント高い。

（問）あなたがそのような行為を受けたとき、お子さんに対しても暴力や虐待がありましたか。

